

ディスプレイ憲章

ディスプレイは
 主題を空間に演出する伝達技術である
 われわれは
 企業間の相互理解に立ち
 業界全体の繁栄をはかると共に
 創造に徹し
 技術を磨き
 ディスプレイを通じて
 社会に貢献する

CONTENTS

ディスプレイの眼 「スマートグリッド」と ディスプレイ	・ ・ 1
第 35 回親善ボウリング大会	・ ・ 2
東京デザイン巡り 「丸の内」	・ ・ 4
next HERO わが社の新人紹介	・ ・ 6
新春セミナー 「江本孟紀の熱き語らい」	・ ・ 8
面接担当者のための 採用面接ポイントセミナー	・ ・ 9
格付 UP による資金繰り 改善セミナー	・ ・ 10
金融機関から高評価を 勝ち取る対策セミナー	・ ・ 11

ディスプレイの眼

「スマートグリッド」と ディスプレイ

<はじめに>

この度の東北地方太平洋沖地震により被災されました方々に、心よりお見舞い申し上げます。

今後「スマートグリッド」「スマートコミュニティ」の観点から、復興における街づくりや、電力供給の仕組みの再構築が進められていくのではないかと推察されます。

ともあれ、被災地の一日も早い復興を心より祈念いたします。

「スマートグリッド」元年と呼ばれた2010年、その動きは展示会の世界でも垣間見ることが出来ました。

2010年6月にはスマートグリッドと銘打った初の展示会「スマートグリッド展」が開催。10月には、「CEATEC」での特別展示として「スマートグリッドイノベーション」が実施され、自動車会社など今までとは異なった企業が出展したり、12月の「エコプロダクツ2010」でも各社がスマートグリッド関連の展示を行ったりしていました。

この動きは今後も続くことが予想され、今年開催の東京モーターショーでも“次世代自動車とそれを取り巻く社会システム”をテーマに、スマートコミュニティ社会における電気自動車の関わりを中心に、エネルギーや通信、住宅など自動車以外のテーマ展示することが発表されています。

一方で、スマートグリッドをどう表現するのかはまだまだ手探りの状態のようで、既存のエコ商品展示やパネル紹介、せいぜい街のジオラマ展示などが中心であり、スマートコミュニティの全体像や、ライフスタイルがどう変化するのかということまではまだ表現できていないというのが正直なところではないでしょうか。

まだまだ全体像が見えづらい「スマートグリッド」「スマートコミュニティ」をどう表現していくか、ディスプレイ事業者の手腕が試されているのかもしれない。